

## 1-2 調査の概況

地震によって窓ガラスがどのような被害を受けているかについて建物の被害との関連において調査するために、被災現地において建物外部からの目視による観察を実施した。今回の調査にあたっては、建物の被害状況が比較的軽微な場合の窓ガラスの被害状況を中心に調査したため、調査対象建物は主に不燃構造の建物となっている。

### (1) 調査目的

地震によって建物に加えられた力の結果として生じる建物の変形が窓ガラスにどのような被害をもたらしたかについて、主に次のような視点からの調査を実施した。

#### ① 建築物の構造部分の被害とガラスの被害との関係

1981年に改訂された建築基準法に準拠し、耐震性を考慮して設計された建物における窓ガラスの被害状況

#### ② 窓ガラスの施工法と被害状況との関係

1978年の宮城県沖地震を契機として原則的に禁止された硬化性パテにより施工された窓ガラスの被害状況、および弾性シーリング材により施工された窓ガラスの被害状況

### (2) 予備調査

建物被害が比較的軽微な地域では開口部の復旧が早いと思われるので、震度が比較的小さい地区における現状確認を目的とした調査、および本調査に際しての情報入手を目的とした予備調査として、各種建築物におけるガラスの被害状況についての概略を把握するために実施した。

#### ① 調査期間 1月19日(木)～1月21日(土)

#### ② 調査地域

- ・大阪梅田地区ビジネス街（大阪市中心部・北区）
- ・大阪南港新ビジネス街（WTC、ATC等）
- ・大阪ビジネスパーク（大阪市中心部）
- ・新大阪駅周辺部（大阪市中心部）
- ・京都市内
- ・西宮市中心部

#### ③ 調査班の構成

##### ・板硝子協会建築委員会

- |       |             |
|-------|-------------|
| 小島 浩士 | 旭硝子株式会社     |
| 高原 正弘 | 日本板硝子株式会社   |
| 大泉 維宏 | セントラル硝子株式会社 |
| 森下 剛行 | 板硝子協会       |